



2012年度 決算概要説明

2013年5月14日
カルソニックカンセイ株式会社
取締役社長 森谷 弘史



2012年度 決算概況

2012年度 決算概況 <12ヵ月累計>



(億円)

	11年度実績 (A) (11/04~12/03)	12年度実績 (B) (12/04~13/03)	増減 (B)-(A)
売上高 (付加価値売上高)	7,823 (5,085)	7,609 (4,781)	△214 (△304)
営業利益 ※(営業利益率)	220 (4.3%)	103 (2.1%)	△118 -
経常利益 ※(経常利益率)	220 (4.3%)	132 (2.8%)	△88 -
当期純利益 ※(当期純利益率)	243 (4.8%)	59 (1.2%)	△184 -

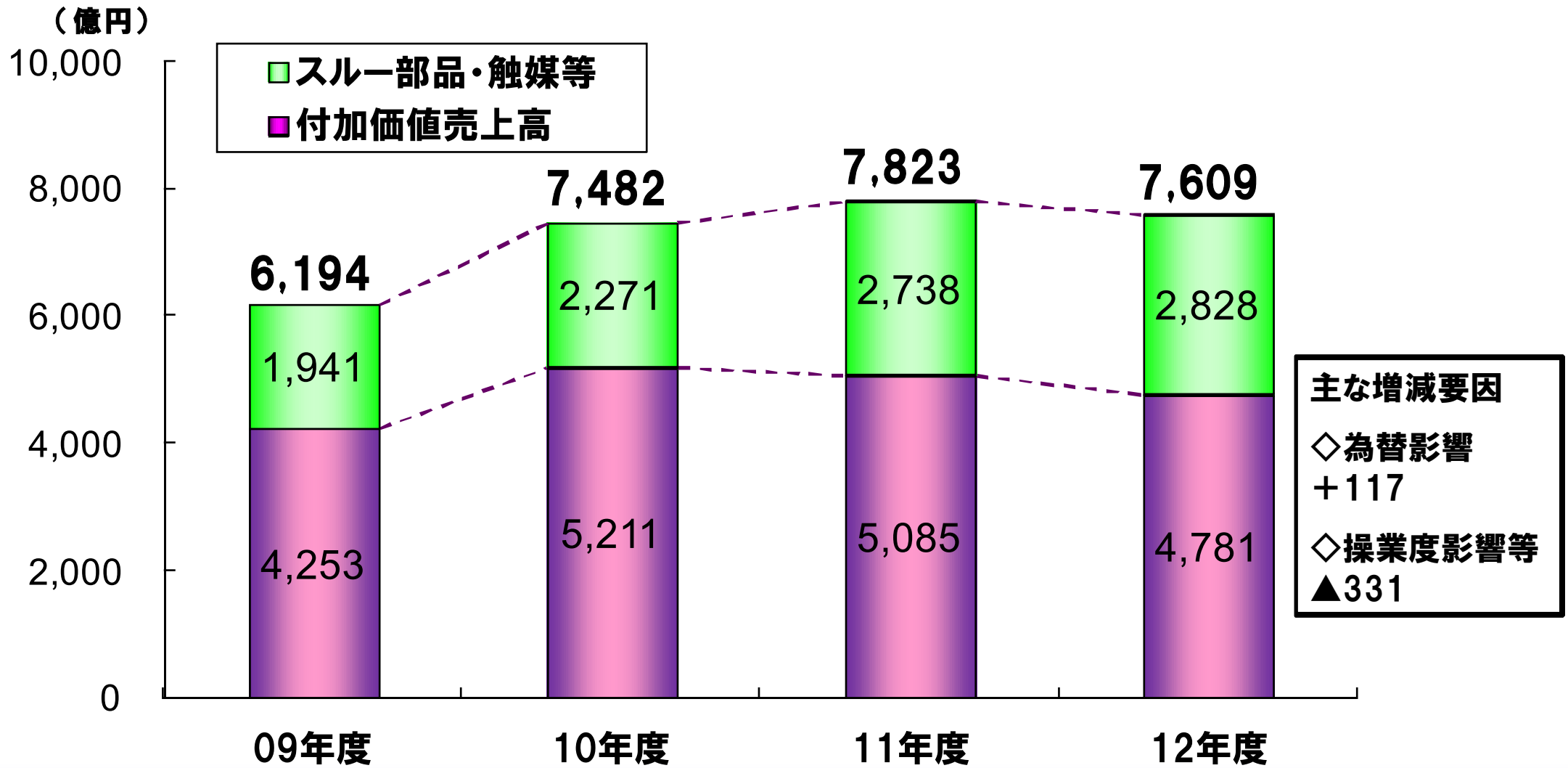
※利益率は付加価値売上高をもとに算出

為替レート	ドル	79.1	82.9	+3.8
	ユーロ	109.0	106.8	△2.2

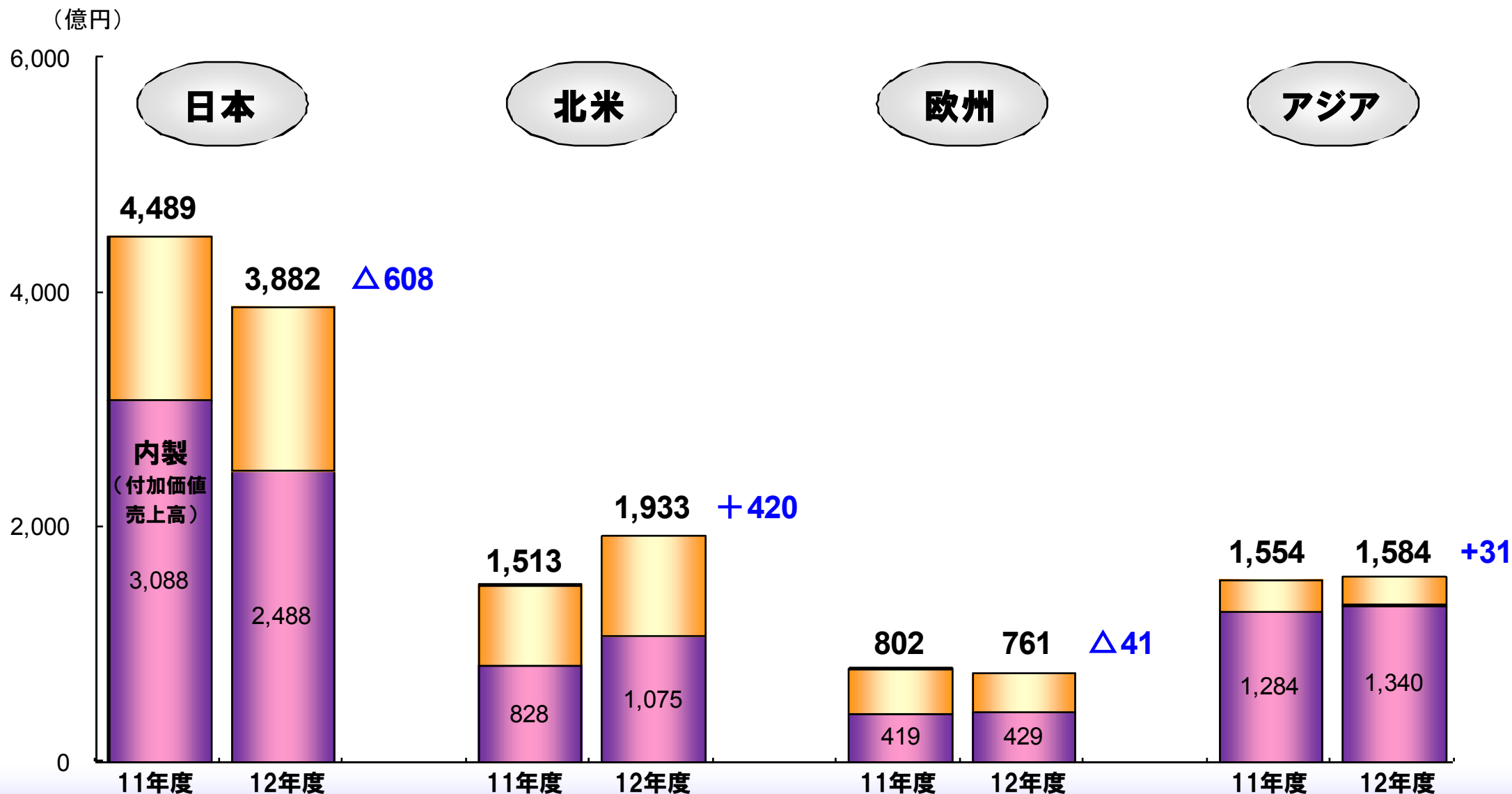
売上高推移 < 09年度～12年度 >



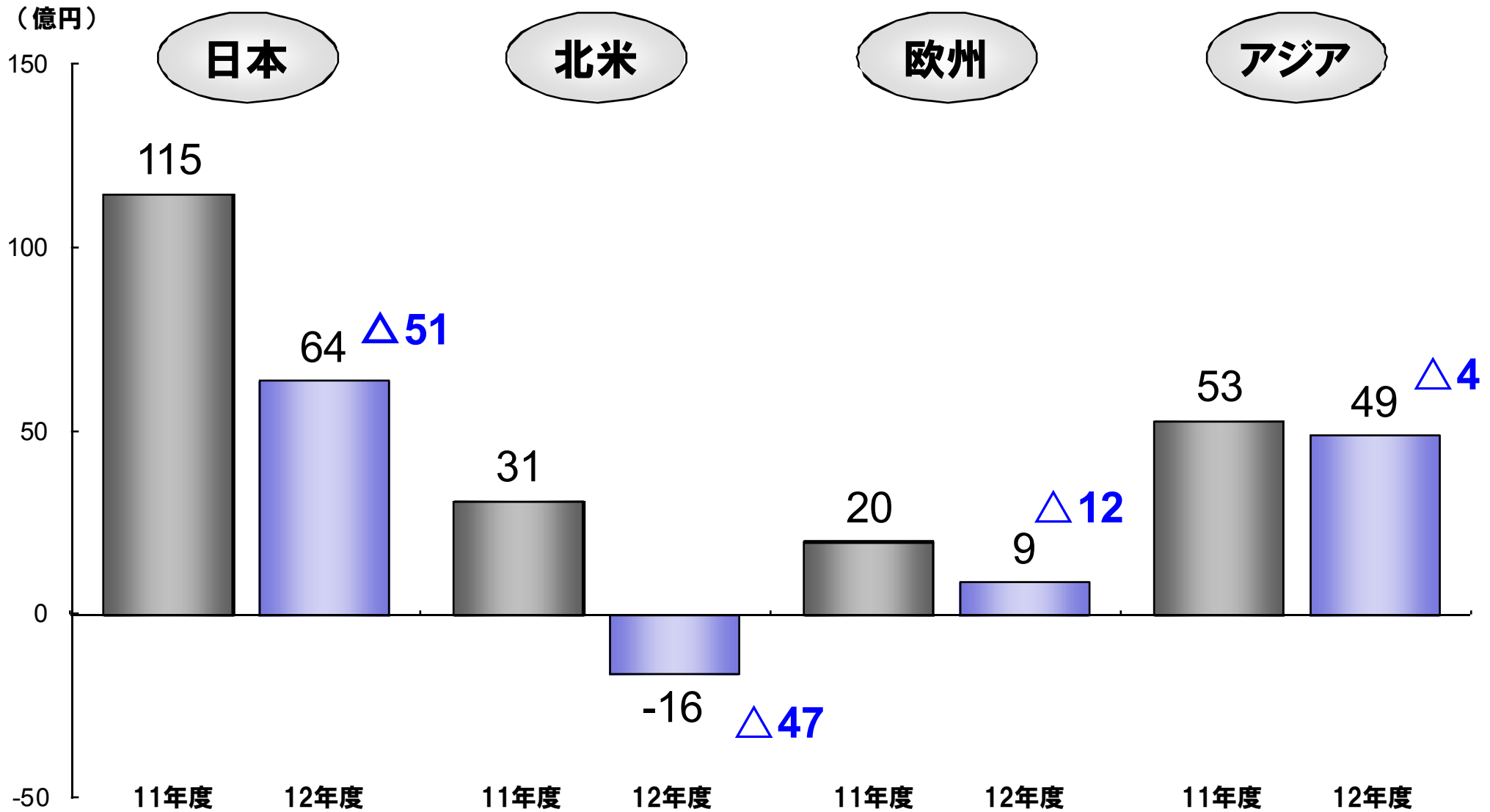
(※)スルー部品は社内管理値



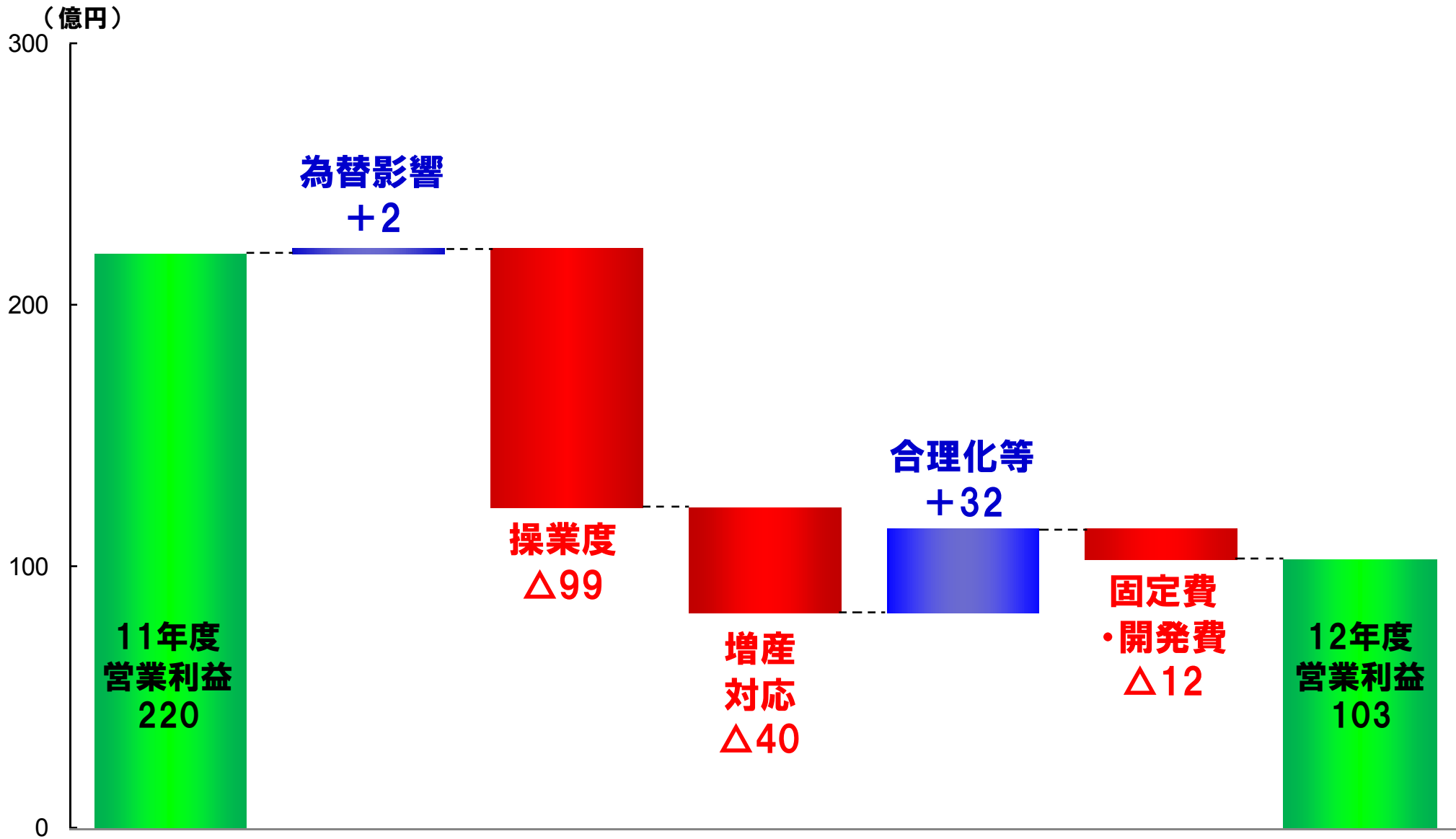
売上高推移 <地域別>



営業利益推移 <地域別>



營業利益 增減要因 <11年度/12年度>



經常利益、当期利益 <12ヵ月累計>



	11年度	12年度	内容(12年度 実績)
営業利益	220	103	
営業外損益	0	30	為替差益48(前期:為替差損25)
經常利益	220	132	
特別損益	78	△15	特別損失:課徴金等7 他
税引前利益	298	117	
税金等	△55	△56	法人税、住民税、事業税:31 法人税等調整額:21
当期純利益	243	59	

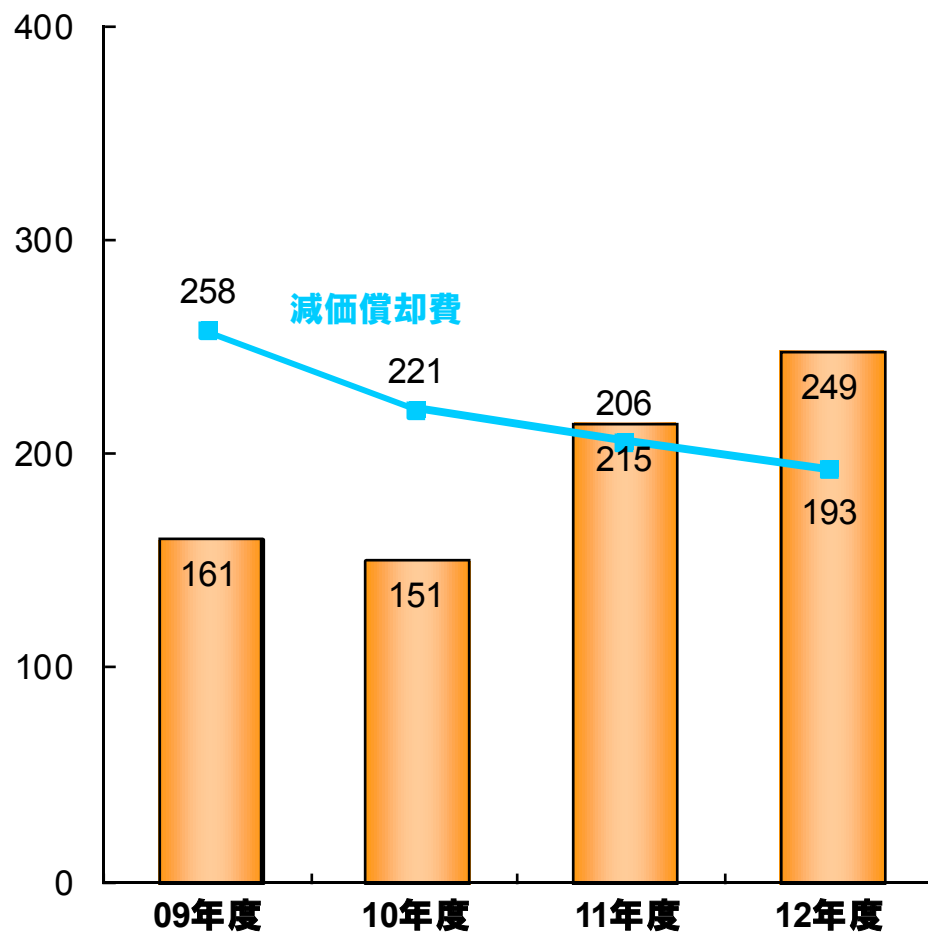
➤ 期末配当は、一株当たり**3円75銭(年間7円50銭)**を実施

設備投資、減価償却費、研究開発費

<12ヵ月累計>

(億円)

設備投資



3.8%

2.9%

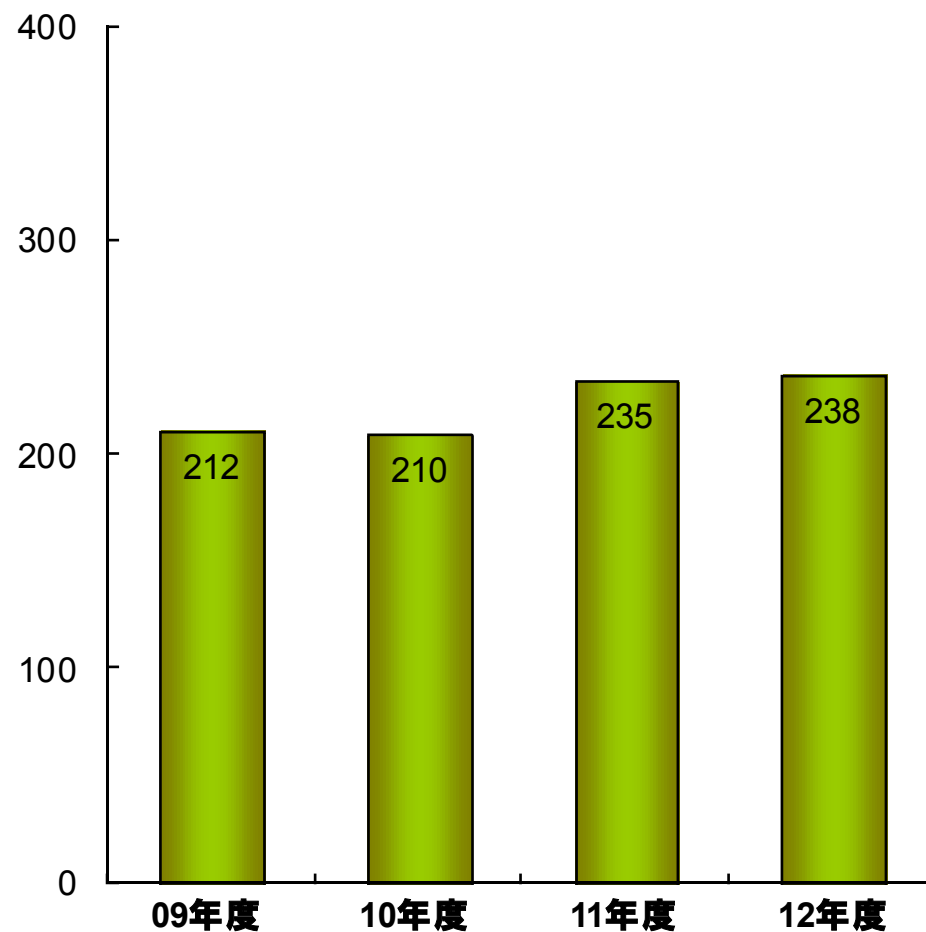
4.2%

5.2%

売上高比率
(付加価値売上高)

(億円)

研究開発費



5.0%

4.0%

4.6%

5.0%

売上高比率
(付加価値売上高)



2013年度 見通し

V字回復のための3つの挑戦



1. 成長市場での軌道回復

- (北米) 新車プロセスの徹底見直しの完了、グローバル展開
- (中国) 競争力のさらなる向上、民族系メーカーへの拡販
- (アジア) ものづくり力の向上による、収益の柱への成長
- (新興市場) ロシア、ブラジルでの生産開始

2. 日本ものづくり革新

- ものづくりの原点に立ち返り、生産技術力と現場力を徹底追及
- 最適な生産・物流効率を実現する工順再編成

3. Lean & High value 本社への革新

- 業務のグローバル標準化と戦略本社への絞り込み
- 海外リージョンのリソース強化と経営権限のシフト

2013年度 業績見通し



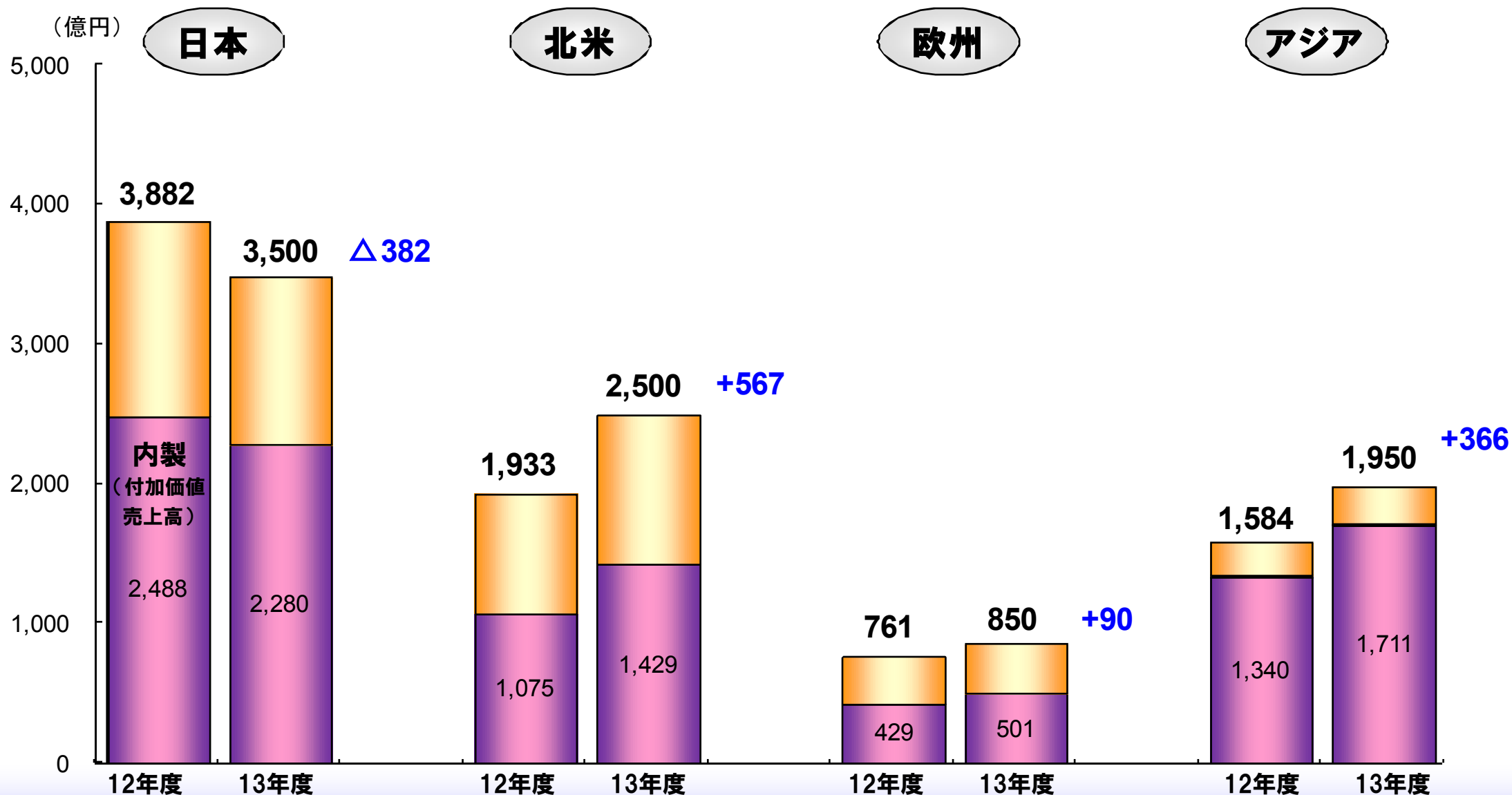
(億円)

	12年度実績 (A) (12/04~13/03)	13年度見通し (B) (13/04~14/03)	増減 (B)-(A)
売上高 (付加価値売上高)	7,609 (4,781)	8,300 (5,400)	+691 (+619)
営業利益 ※(営業利益率)	103 (2.2%)	200 (3.7%)	+98 -
経常利益 ※(経常利益率)	132 (2.8%)	190 (3.5%)	+58 -
当期純利益 ※(当期純利益率)	59 (1.2%)	100 (1.9%)	+41 -

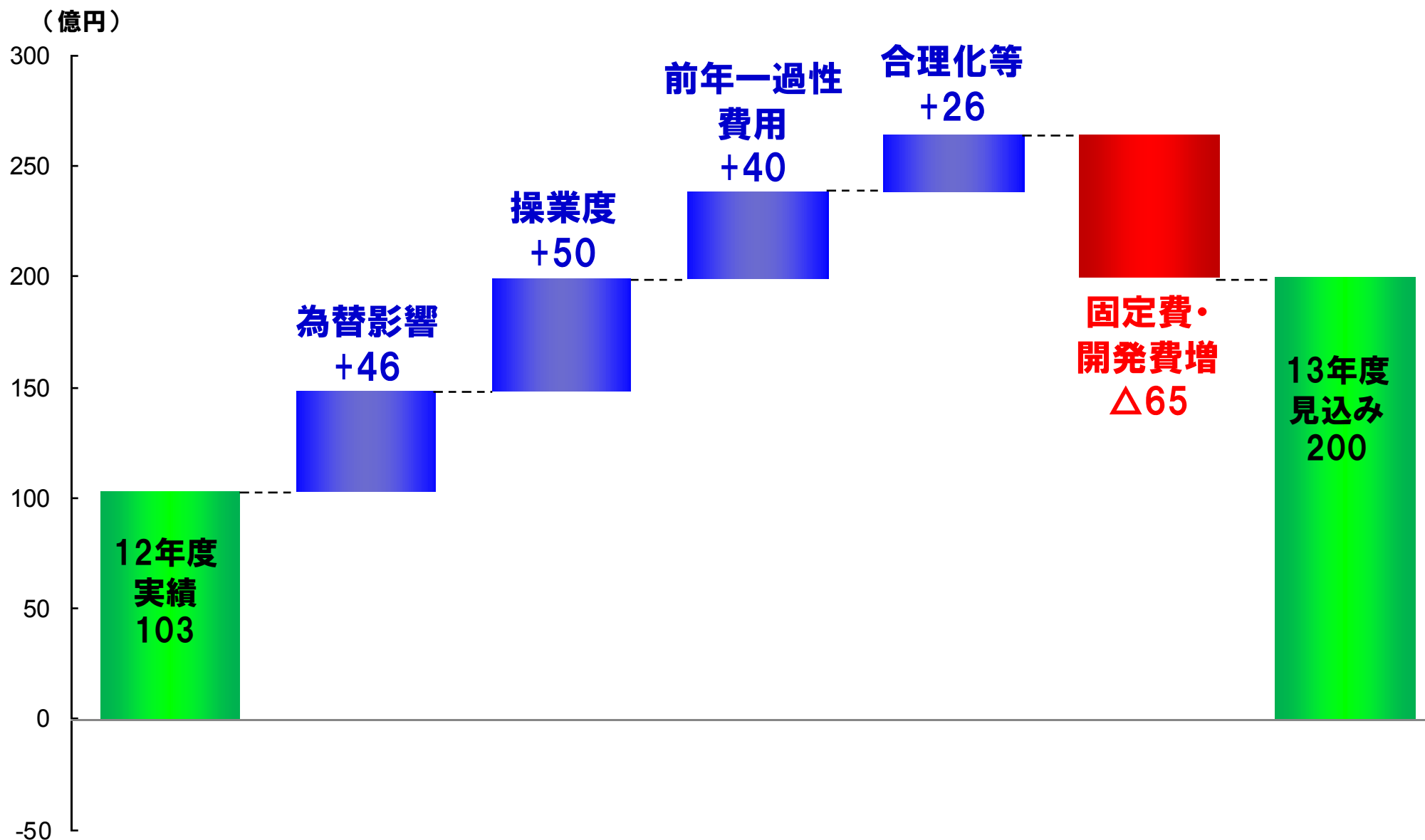
※利益率は付加価値売上高をもとに算出

為替レート	ドル	82.9	95.0	+12.1
	ユーロ	106.8	122.0	+15.2

見通し売上高推移 <地域別>



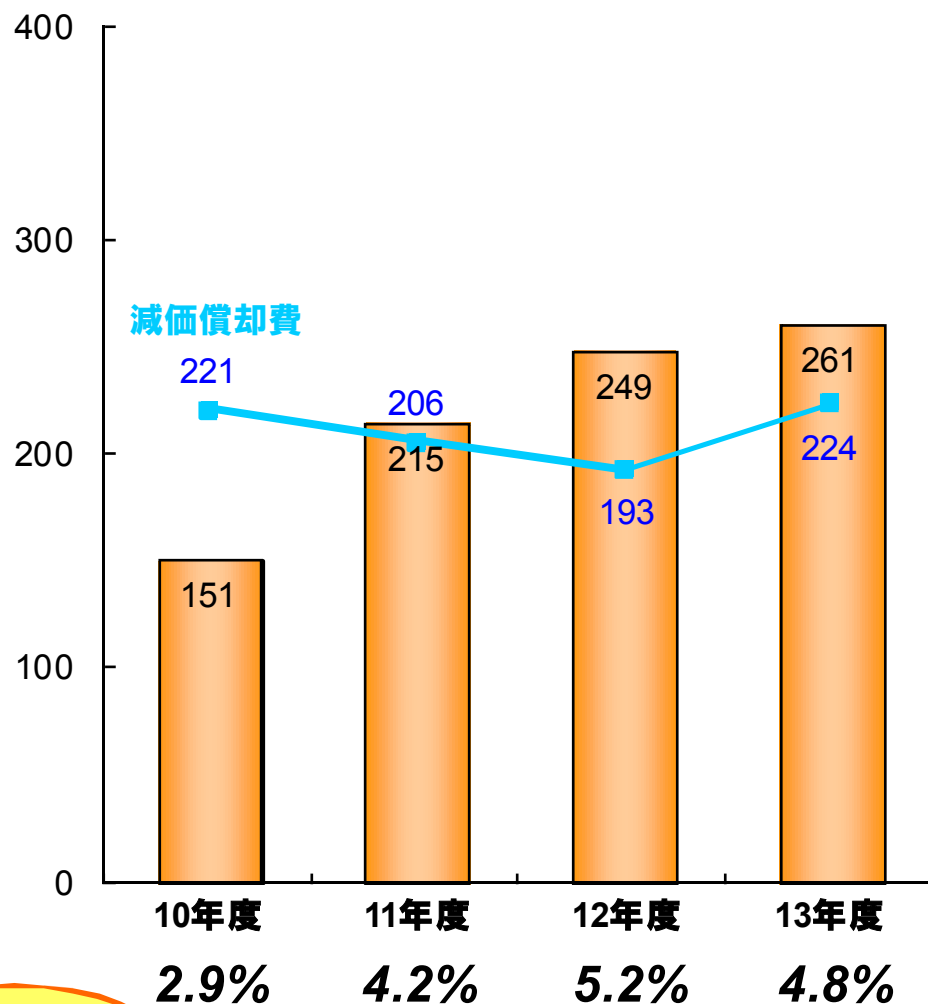
営業利益 増減要因 <12年度実績/13年度見通し>



設備投資、減価償却費、研究開発費 計画 <12ヵ月累計>

(億円)

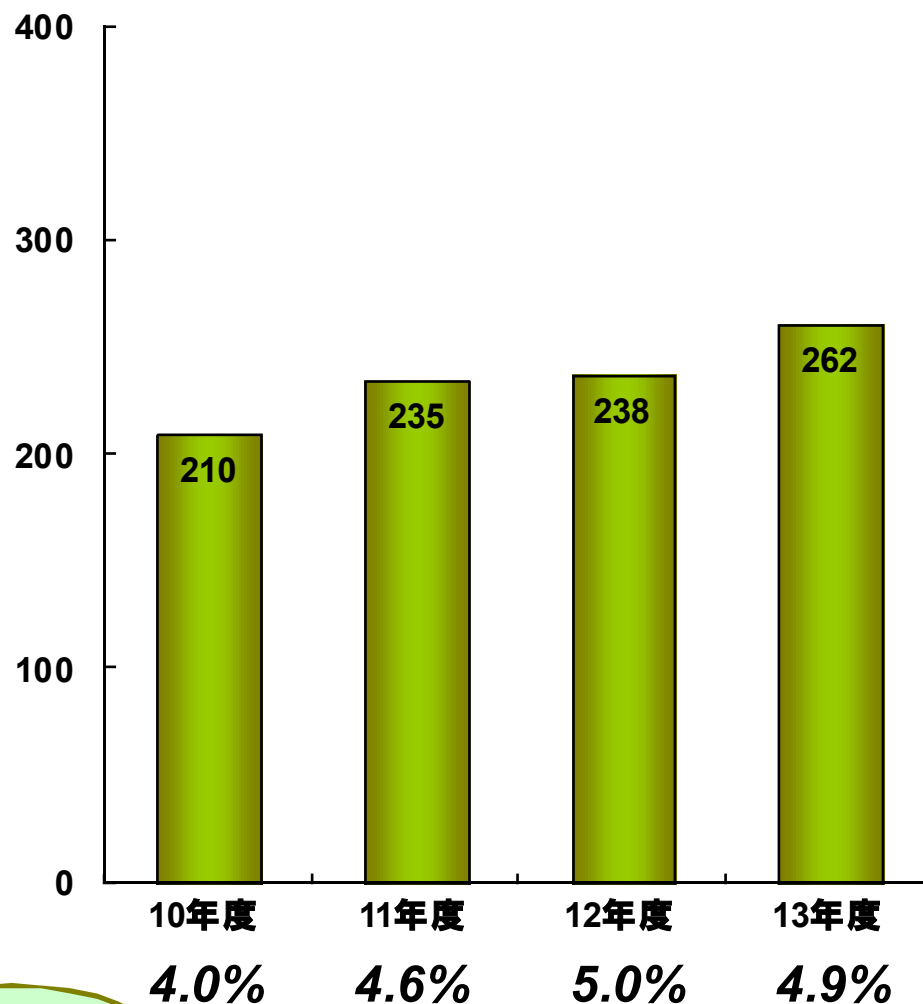
設備投資



売上高比率
(付加価値売上高)

(億円)

研究開発費

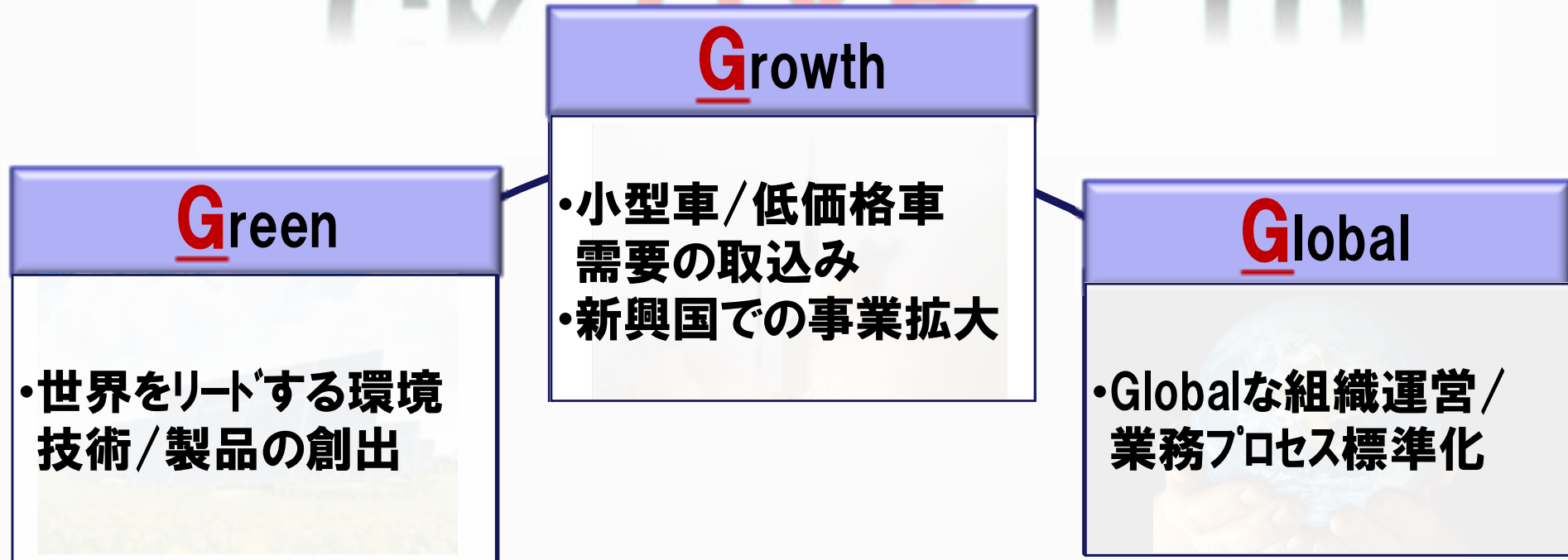


売上高比率
(付加価値売上高)



中計『CK G×4 T10』の進捗

CK GX4 T10

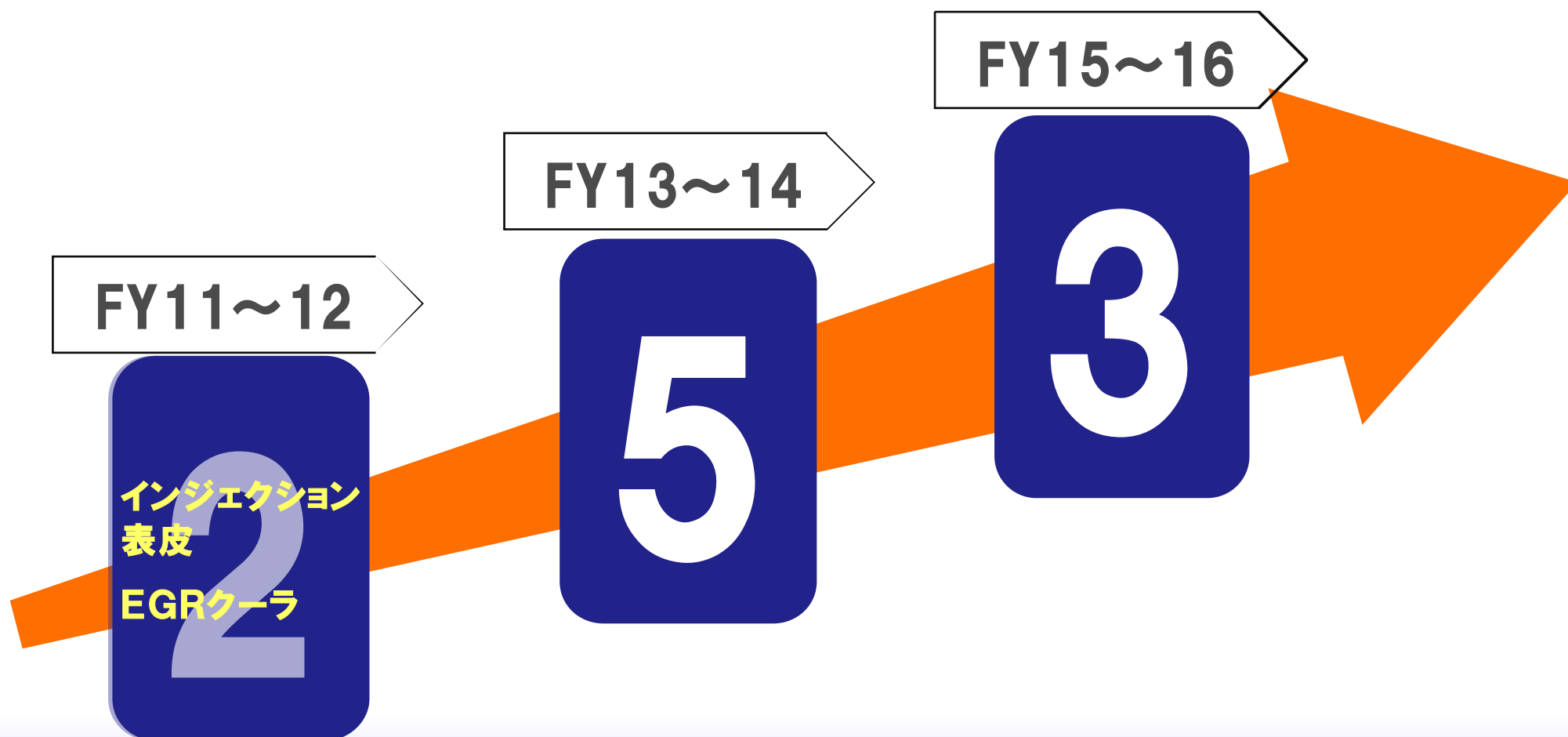


Great Companyとしての企業基盤確立

環境型製品の市場投入

目標

2016年までに世界をリードする
10個の環境型製品を投入する



新技術・新製品

➤ EGRクーラ



EGR(※)クーラとは:

エンジンの排気を燃焼室に戻す際、排気を冷却する熱交換器。

エンジンの吸入時のポンプ損失(=細い針のついた注射器で空気を吸うときの抵抗損失)を軽減し、燃費が改善できる。

(※) Exhaust Gas Recirculation = 排出ガス再循環

- ガソリンエンジン車での採用拡大が予測される、超小型軽量タイプ
- 新開発VVGフィンにより、世界トップの熱交換効率を実現
- 2013年より日系メーカー向けに納入開始

『人とくるまのテクノロジー展2013』(パシフィコ横浜 5/22~24)では、上記製品をはじめ、22の量産製品と開発品を展示します。

拡販活動

➤ 日産圏外への新規拡販受注(FY12実績の主なもの)

➤ 欧州系メーカー
(熱交製品)

➤ 民族系メーカー
(熱交製品)

➤ 日系メーカー グローバル車種
(熱交製品・コンプレッサ・メーター・BCM等)

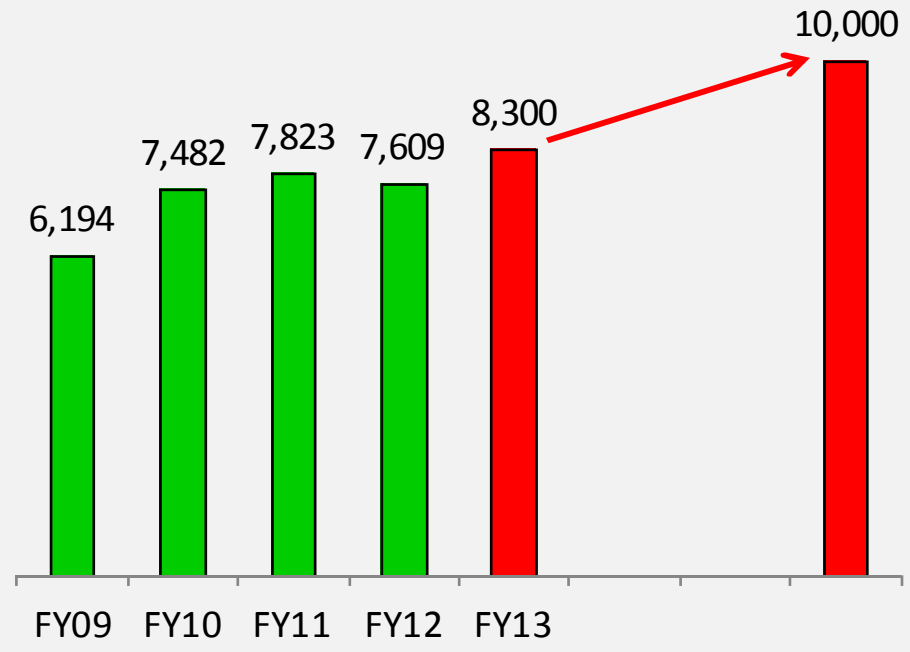
ネット拡販金額(※)は、3年連続で過去最高を更新

※ 新規拡販ー現行失注

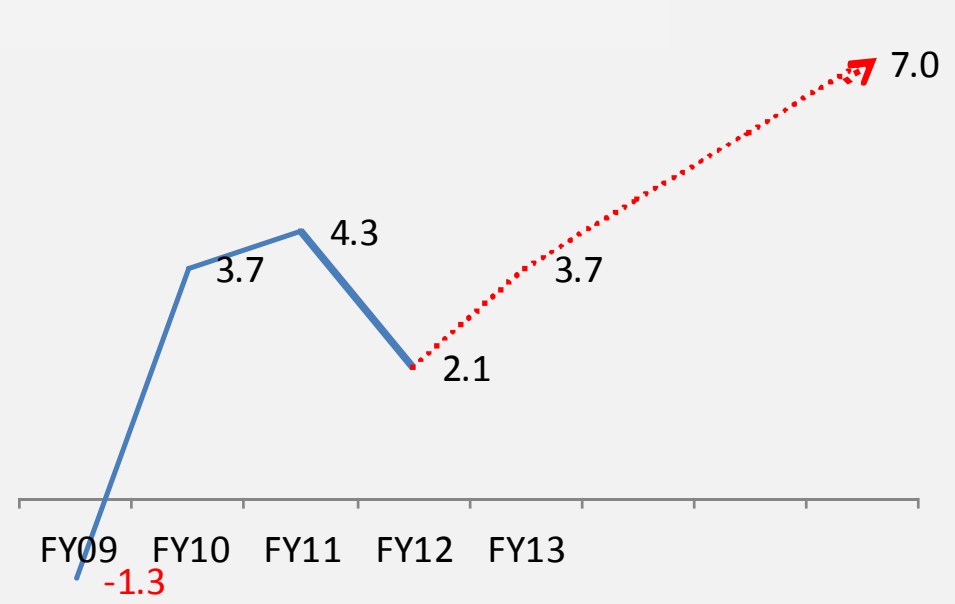
CK GX4 T10

売上高Globalトップ10 (1兆円以上)

営業利益Globalトップ10 (7%レベル*1)



*1:付加価値売上比率





- ・本資料に記載されているカルソニックカンセイ(株)の計画、戦略、意見等のうち、歴史的事実でないものは将来の業績等に関する見通しであり、リスクや不確定な要因を含んでおります。実際の業績は、経済情勢、市場の動向、為替の動向等重要な要素の変動により、見通しとは異なる結果もあり得ることもご承知おき下さい。
- ・本資料に掲載されている事項は情報提供を目的とするものであり、投資勧誘を目的としているものではありません。
- ・この資料の著作権はカルソニックカンセイ(株)に帰属しております。
無断転載・複製することを禁じます。